

子どもたちを VPD から守いましょう！

VPD: Vaccine (ワクチン) Preventable (防げる) Disease (病気)

久留米小児科医会
久留米産婦人科医会
久留米医師会

ご出産おめでとうございます。

産まれてきた大切な赤ちゃんのために産科医・小児科医からの提案です。

お子さんにワクチンを接種してあげましょう！

赤ちゃんはお母さんのお腹の中に居る間は、外部の病原体から守られていましたが、出産後は様々な病原体にさらされ、感染を受けることになります。赤ちゃんの感染症の中には命に係わる可能性のあるものもあります。命に係わらないまでも、後遺症が残って大変な思いをすることもあります。例えば、細菌性髄膜炎、百日咳、麻疹(はしか)など。これらの多くはワクチンで予防することが可能です。

どんなワクチンがあるのでしょうか？

現在日本で接種できるワクチンは、全部で 11 種類ほどあります。

これらの内、1 歳未満で接種すべきワクチンには、

- ・ヒブワクチン
- ・小児用肺炎球菌ワクチン
- ・三種混合ワクチン
- ・BCG ワクチン
- ・ポリオワクチン

があります。

では、どのワクチンから接種を始めたら良いのでしょうか？

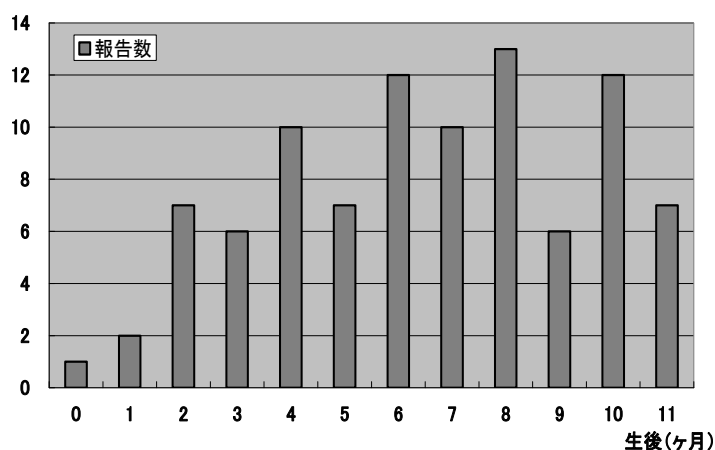
【ヒブワクチン】

【小児用肺炎球菌ワクチン】

これらは、細菌性髄膜炎、敗血症などを起こす ヒブ（インフルエンザ菌b型）、及び、肺炎球菌の感染を予防するワクチンです。

細菌性髄膜炎・敗血症は早期診断が難しく、重症化しやすく、適切な治療が行えても死亡に至ったり、重い後遺症が残ることもあります。

我が国における細菌性髄膜炎報告数(2006～2008年)



我が国では、2歳未満児に多く発症し、図にあるように、生後2ヶ月頃から報告数が増加傾向となります。

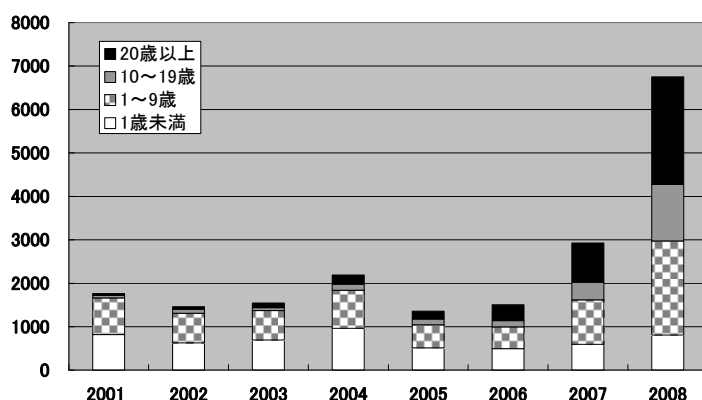
ヒブワクチン・肺炎球菌ワクチンともに、生後2ヶ月からの接種が可能ですので、この月齢に達したらできるだけ早く接種してください。

【三種混合ワクチン】

ジフテリア菌、百日咳菌、破傷風菌感染を予防するワクチンです。

この中で、百日咳菌は月齢の低い子どもさん(特に6ヶ月未満)に感染すると、強い呼吸困難、チアノーゼ、けいれん等を起こします。最悪の場合は死亡に至ることもあります。

我が国における百日咳報告数の年別・年齢群別割合



我が国における百日咳患者数は、図にあるように2007年辺りから急激な増加傾向にあります。特に20歳以上の成人の間で急増しています。

今後は、アメリカなどでも見られているような、成人から乳幼児への感染が増加し、乳幼児の重症例(時に死亡例)

が増えてくることが危惧されています。

三種混合ワクチンは、生後3ヶ月からの接種が可能ですので、この月齢に達したらできるだけ早く接種してください。

【BCG ワクチン】

結核菌感染を予防するワクチンです。

日本は先進国の中でも、依然として結核の患者さんの多い国です。

赤ちゃんの場合は、髄膜炎など重症になりやすく、後遺症が残ったり死亡する場合もありますので、生後6ヶ月までには接種してください。

【ポリオワクチン】

ポリオウイルスの感染を予防するワクチンです。

感染すると、時に手足の麻痺(まひ)をきたすことがあります。

しかし日本国内では、30年以上ポリオ患者の発生はありませんので、急いで接種する必要はありません。

以上のことから、別図のワクチン接種スケジュールに従って、

- ・ **ヒブワクチン**
- ・ **小児用肺炎球菌ワクチン**
- ・ **三種混合ワクチン**

を、接種可能な月齢に達したら、できるだけ早く接種してください。

また、複数個のワクチンを同時に接種することが可能です。

同時接種には、何度もクリニックへ通う必要が無いメリットがあります。

欧米を始めとして多くの諸外国では、同時接種がスタンダードに行われています。

ワクチンスケジュールに関して詳細をお聞きになりたい方は、

- ・ かかりつけの小児科医やかかりつけ医
- ・ 久留米市保健所(健康推進課:0942-30-9731)
- ・ あるいは、お住まいの保健所

にお尋ね下さい。

久留米小児科医会
2011年7月作成

3歳までのおすすめ予防接種スケジュール

		ワクチン名	0歳	3か月	6か月	9か月	1歳	2歳	3歳
予防接種方法にもとづく	不活化	三種混合第Ⅰ期（DPT）		①② ③	④				
	生	BCG		①	生後6か月までに接種				
	生	ポリオ（経口）		標準的な接種期間は生後3か月から1歳6か月の間（2回接種します）					
	生	麻疹・風疹混合（MR）						①	
	不活化	日本脳炎				標準的な接種年齢は3歳以上			
その他のもの	不活化	小児用肺炎球菌（7価結合型）		① ②③	生後2か月から接種可能		④		
	不活化	ヒブ（インフルエンザ菌b型）		① ②③	生後2か月から接種可能		④		
	生	水痘（みずぼうそう）						①	
	生	おたふくかぜ	肺炎球菌・ヒブワクチンは、 生後2か月より接種開始可能					①	
	不活化	インフルエンザ*				毎年2回（秋に3－4週間隔で）おすすめは1歳以上			

接種可能な時期（数字は接種回数と推奨される接種時期） *インフルエンザの予防接種は生後6か月から可能ですが、おすすめは1歳以上

予防接種どうしの間隔

生

ワクチンのあと、他の予防接種は27日以上あける

不活化

ワクチンのあと、他の予防接種は6日以上あける